

序文

埼玉大学は本年創立70周年を迎えました。旧制浦和高校を母体とする文理学部と、埼玉師範学校・埼玉青年師範学校を母体とする教育学部の2学部で開学した埼玉大学は、紆余曲折の歴史を辿り、現在は教養、経済、教育、理、工の5学部と、大学院の人文社会科学、教育学、理工学の3研究科を擁します。そして卒業生は86,622人に及び、2015年ノーベル物理学賞受賞の梶田隆章氏（理学部1981卒）をはじめ、多様な分野で活躍する多彩な同窓生が数多く続いています。

『埼玉大学五十年史』（1999年刊行）によれば、1949年に新制国立大学として開学した埼玉大学の目的・使命は「広い教養と深い専門学術を備え、知的、道徳的、応用的能力を有する人材を養成する」ことでした。そして、「学問の理想の上で明徹なる普遍性を有し、学園の個性的情趣において郷土色豊かな大学の道、これを進む」とされています。また、新関良三 初代学長は、「謙虚であって気品高く、卑怯と虚偽を排し、たくましく進むであらう諸君の姿を望見することは、我々の何よりも大きな歓喜である」と、新入生を激励したとされます。これらの、言わば「建学の精神」「校風」「学生気質」は、70年経った今も脈脈と引き継がれているように思います。

現在、本学は「埼玉大学 All in One Campus at 首都圏埼玉～多様性と融合の具現化」をビジョンとして掲げます。文系、理系、教育系の多様な学問が、日本人、外国人、社会人の多様な学生と教職員が1キャンパスに集う埼玉大学。知の府としての基盤強化と、首都圏埼玉に根ざした個性化とを2軸とした機能強化により、一層輝きを増します。第1の軸は、大学の主たる使命が知の創造と継承であることを据えた、研究力と人材育成力の強化という大学としての基盤強化です。また、第2の軸は、地域活性化中核拠点として、産学官連携による地域課題解決と地域ニーズに応じた人材育成を進めるという埼玉大学としての個性化です。そして、埼玉大学は多様性を尊重しつつ、シナジーをもたらします。

本書『埼玉大学七十年史』では、『埼玉大学五十年史』を受け、その後の20年の歩みをまとめました。編纂に関与された教職員各位のご尽力に対し、心からの敬意と謝意を表します。この20年を振り返れば、埼玉大学を含め、全ての国立大学にとって大きな転換期がありました。それは2004年の国立大学法人化です。国の行政組織から切り離された独立機関となり、運営上の裁量は大幅に拡大した反面、経営的側面が強調されるようになって、大学のあり方が大きく変わりました。そして、今後も、少子高齢化、Society 5.0 時代などの急激な社会変革に対応して、国立大学はその将来のあり方が問われ続けます。埼玉大学にあっては、来歴を振り返りつつこれからの時代に見合ったビジョンを明確にして、創立70周年の標語「つなげよう未来へ」に込めた想いのとおおり、「一つのチーム」として地域に根ざし、世界とつながり、その歴史を未来へつないでいくことを切に願っています。

2019年10月

学 長

山口宏樹